

第9章 社会連携・社会貢献

1. 現状分析

評価項目①

社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

<評価の視点>

- ・社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。

《全学的な方針》

- 大学全体では、社会連携・社会貢献に関する取り組みのための全学的な方針として、『社会連携・社会貢献に関する方針』を定めている。同方針では、国際的研究・教育拠点として、地域社会、産業界、国際社会等との幅広い連携活動を展開し、教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元することにより、社会連携・社会貢献・国際協力を積極的に推進することを掲げており、「社会連携」、「産学官連携」及び「国際社会への貢献」の3つの項目について更に方針を纏めている。

(大大評9-1 法人ホームページ「各種法人」「社会連携・社会貢献に関する方針」)

- 社会連携等の推進にあたっては、社会連携推進室、革新的医療技術開発研究センター、研究戦略推進センター、国際交流センター、アドミッションセンター、各キャンパス及び附属病院等が中心となり、民間企業、自治体、学外の研究機関、高等学校、他大学、海外協定校等と連携・交流を図ることで、多様な教育研究活動の成果を還元し、大学の価値向上に繋げている。

《社会連携・地域連携》

(1) 実施体制

- 社会連携・社会貢献の取り組みについては、以下の方針を明示している。教育・研究・臨床成果及び人的資源等の活用による地域社会との連携推進を図るための組織として法人部門に「社会連携推進室」を設置し、全学の社会連携に関する具体的な計画の策定や施策の実施、外部団体との連携、交流活動の推進等に取り組んでいる。各キャンパス及び各医学部附属病院にも「社会連携推進分室」を設置し、社会連携推進室と各部門が連携して活動を推進する体制となっている。

社会連携・社会貢献に関する方針（抜粋）

<社会連携>

- ・本学の教育・研究・臨床成果及び人的資源等を活用して地域社会との連携活動を推進し、地域社会の持続的発展に貢献するとともに、本学における教育研究活動の活性化を図ります。
- ・法人直轄組織として社会連携推進室、各キャンパス及び各医学部附属病院に社会連携推進室分室を置き、社会連携の推進を図ります。
- ・各学部・研究科は、自治体等と連携協力して、地域住民に対する公開講座・公開講演会・スポーツイベント・健康教室等を充実させ、生涯学習の要望に応えていきます。
- ・医学部附属病院群は、高度先進医療を積極的に実践するとともに、地域医療の中核病院としての役割を果たします。具体的には、各病院の特色に合わせて次のような取組みを推進します。①日常診療におけるスムーズな病病連携、病診連携の推進、②地域の医療従事者への医療情報の提供、③医師会や自治体主催の講演会等への講師派遣、④地域住民に最新の医療情報等の学習機会を提供する市民公開講座・研修会の開催。
- ・高大連携活動を積極的に展開し、高校生に対して大学で学ぶ意義や大学での学修に必要な能力・態度についての理解を深めるよう取り組みます。

第9章 社会連携・社会貢献

(大社連9-1 学校法人順天堂社会連携推進室運営規程)

(大社連9-2 社会連携推進室実施体制図)

- 社会連携推進室では、総務局企画調査室でとりまとめる中期計画・年次事業計画のほか、学長の主導により年1回開催する「社会連携推進委員会」において事業計画を策定している。同委員会では、各キャンパス・学部、附属病院の各部門から前年度の事業報告を行い、各事業の進捗・成果を確認の上、今年度の事業計画について確認を行っている。

(大社連9-3 令和5年度社会連携推進委員会議事録_令和5年7月)

(2) 主な取り組み・成果

本学では、市民公開講座や講演会・フォーラム等を数多く開催すると同時に、各キャンパス・附属病院毎に実施する地域交流やボランティア活動を通じて、社会貢献活動を行っている。

① 自治体との連携事業

- 社会連携推進室では、「教育の振興」、「スポーツの発展」、「健康支援」等を柱に、地域社会の発展への寄与を目指した取り組みを継続的に実施している。本学は2024(令和6)年3月までに15自治体と連携協定を締結している。

自治体との連携協定

文京区(東京都)、佐倉市、成田市、酒々井町、白井市、印西市、習志野市、栄町、浦安市、富里市(以上、千葉県)、三島市、伊豆の国市(以上、静岡県)、川口市(埼玉県)、砥部町(愛媛県)、遠野市(岩手県)

(大社連9-4 法人ホームページ「自治体との連携」)

- 上記のうち特に包括的な連携が進んでいる自治体として、文京区、成田市が挙げられる。文京区とは、2014(平成26)年度より、「健康・体力増進事業(児童の体力向上推進事業・がん教育)」として連携を強化し、児童の健康増進や体力向上を図り、心と体の健康づくりのため、本学教員が大学の知的資源を還元する以下の取組を行っている。成田市とは、2014(平成26)年度より、健康づくり、介護予防、スポーツ振興、生涯学習の分野に関連する目標を達成するために、本学教員及び学生の知的資源を還元する以下の取組を行っている。

文京区との連携事業(令和5年度)

① 体力向上事業

- 1) 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果に関するデータ分析
- 2) 区立小学校(全20校)が作成する年間の体力向上推進プランへの指導・助言
- 3) 各区立小学校の先生方を対象にした専門実技等の訪問指導
- 4) 児童を対象にした体力向上イベントの実施
- 5) 体力向上啓発資料の作成(文京区教育だより紙面掲載)
- 6) 体育指導に関する授業活用や家庭で取り組むことができる動画資料の作成

② がん教育

- 1) 児童・生徒を対象にがん教育の特別授業を実施

成田市との連携事業(令和5年度)

- ① 地域介護予防活動支援事業(シニア健康カレッジ/高齢者向けの運動指導、指導者育成等)
- ② 各種大会・教室等の開催事業(成田市スポーツ教室/中学生の部活動指導)
- ③ 生涯大学校管理運営事業(教養講座への講師派遣)
- ④ 教育支援センター運営事業(学生サポーターによる不登校児童生徒への運動・学習支援)
- ⑤ 中郷ふるさと交流館主催事業(かけっこ教室/小学生の陸上競技(短距離)指導)

(大社連9-5 文京区・成田市との連携事業)

第9章 社会連携・社会貢献

- 各学部・研究科及び附属6病院では、それぞれの施設を拠点に、公開講座や研修会への講師派遣、自治体・団体等への委員派遣、スポーツイベント支援、健康教室（介護教室・子育て教室等）の開催など、本学の強みを活かした様々な連携活動・交流活動を展開している。

講師、委員派遣	各自治体・団体主催の講演会、研修会、委員会等への派遣
スポーツ支援・協力	スポーツイベント（パラスポーツ含む）の開催・講師派遣等、運動施設の貸出、部活動地域移行推進審議会・スポーツ推進審議会等の委員派遣
教育支援	中学・高校等への出張講義、千葉県小・中学校及び特別支援学校における教育活動アシスタント、文京区中学校における学習支援ボランティア等
健康支援	地域医療連携支援、急病診療所・ワクチン接種支援、医療・看護等に関わる講演会/相談会/健康教室等の開催等

（大社連9－6 令和6年度第1回社会連携推進委員会 令和5年度事業報告）

②専門教育の提供

- 社会人等の学生以外の者を対象とした学修プログラム（「履修証明プログラム」）を開設し、その修了者に対して学校教育法に基づく履修証明書（Certificate）を交付する制度を導入している。
例えば、医学部では、日本の医療のグローバル化が進むなかで、外国人患者の医療ニーズに応えるため、外国の医師免許を持つ医師に対して、日本の医師養成のための医学教育を施し、日本の医師免許取得に必要な知識を修得させ、国際的な視野を有する医療人を育成することを目指した、「国際医療人養成プログラム」を開講している（本章P.137）。
- 大学院において、医療専門職・医療従事者が継続的にキャリアを向上・発展できるよう支援している。
例えば、医学研究科修士課程では、高度専門職業人を目指す社会人学生に対し、学生自身の専門分野に加え、幅広い医学の基礎知識を修得できるよう教育を行い、医療分野のみならず多様な業種の研究開発部門、営業技術部門、サービス部門等のスタッフとして活躍できるよう研究指導を行っている。医療看護学研究科では、専門領域における卓越した実践者の育成のために多分野の専門看護師（CNS）の養成に取り組んでいる。慢性看護、がん看護、感染看護、小児看護、老年看護、精神看護、在宅看護、母性看護、クリティカルケア看護の9つの分野で高度実践看護師（専門看護師）の養成コースを開講している。2023（令和5）年度は、修了生4名が専門看護師認定試験に合格し、累計合格者数は79名となっている。この他、学士号取得者でなくとも出願審査が受けられるコースの設置や、多様化する学習ニーズに応えるため、特定科目を履修する科目等履修生も積極的に受け入れている。
- 高大連携の一環として、アドミッションセンターでは、本郷・お茶の水キャンパスにおいて「高大連携イベント」を開催している。2023（令和5）年度は7校の参加を受け入れ、医学部の紹介、医学教育歴史館の見学、シミュレーションセンターを活用した外科手技体験実習、医学部学生との交流会など、高校生の学習意欲の向上に資する教育イベントを実施した。各学部においても教員が赴き出張講義・模擬授業等を実施している。

③研究成果の還元

- 本学の教育や研究の成果を広く社会に還元・共有するための取り組みとして、以下のセミナー・シンポジウム等を主催している。

<学部・研究科>

医学部：令和5年度（第9回）高校生病理学セミナー、第10回新潟大学・順天堂大学連携セミナー
スポーツ健康科学部：スポーツ健康科学部公開講座（オープンキャンパスでの公開模擬授業、5

第9章 社会連携・社会貢献

回)、生涯学習公開講座(親子スポーツ教室、印西市・酒々井町、4回)、公開講座(縄跳び教室、浦安市)

医療看護学部：医療看護学部公開講座(6回)、第12回地域医療セミナー(浦安市)

保健看護学部：保健看護学部公開講座(5回)、みしま教養セミナー(三島市)、順天祭公開講座

国際教養学部：UNHCR 難民映画祭パートナーズ上映会並びに難民に対する知識・関心を高めるワークショップ

保健医療学部：保健医療学部市民公開講座(2回)

医療科学部：公開講座(1回)

＜順天堂医学会＞

東京都、東京都医師会の後援を受けて、1998(平成10)年以降、健康の増進を目的として一般の方々が多く関心を寄せる様々な疾患・病態等をテーマに、本学の教職員がわかりやすく解説する「都民公開講座」を毎年本郷・お茶の水キャンパスにて開催している。令和5年度は以下のテーマによる講座を開催した。

- ・第51回都民公開講座「人生100年時代 健康長寿を目指して今できること」
- ・第52回都民公開講座「AI・データサイエンスを駆使した未来の健康と医療」

※この他、各附属病院において、主催又は自治体等との共催による公開講座を実施。

- この他、国・自治体の委員会・審議会等に対して、専門家を派遣している。

主な専門家派遣(令和5年度)

白井市生涯学習推進委員会、川口市教育委員会いじめ調査委員会、千葉県スポーツ推進委員会、印西市部活動地域移行推進協議会、印西市社会教育委員会、千葉県地域・職域連携推進協議会、三島市子ども・子育て会議、三島市高齢者保健福祉及び介護保険運営懇談会、三島市まち・ひと・しごと創生推進会議、三島市健康づくり推進協議会、など

(大社連9-6 令和6年度第1回社会連携推進委員会 令和5年度事業報告)

④災害への対応・支援

- 2024(令和6)年1月1日に発生した能登半島地震において、各附属病院より医療従事者(医師、看護師、業務調整員からなるDMATチーム等)を派遣するなど、様々な支援活動を実施した。

(大企画9-1 令和5年度事業報告書_臨床活動の主な概要)

- 2015(平成27)年度から、三島市との間で、災害発生の医療救護所として三島キャンパス内施設、備品・物品、ヘリポートとしてグラウンドを提供する覚書を交わしている。

(大保看9-1 三島市との災害時救護体制覚書)

⑤その他(大学間連携)

- 本学では、他大学との間で学術交流や研究交流、教育協力等に関する連携協定を締結しており、2001(平成13)年以降、26の協定を締結している。

(大大評9-2 順天堂大学における大学間連携一覧)

＜産学官連携＞

(1)実施体制

- 本学では『産学官連携ポリシー』を策定し、産学官連携の基本な考え方を定めている。連携の推進にあたっては、『社会連携・社会貢献に関する方針』に記載する「革新的医療技術開発研究センター」及び「研究戦略推進センター」が中心となり、様々な取り組みを行っている。

第9章 社会連携・社会貢献

- 近年は、研究成果をシーズとして自ら研究費を獲得する仕組みを構築することが求められており、その中で重要視されているのが、学内外を問わず、それぞれが持つ知見や技術力を駆使してイノベーションを創出し、社会実装を進める「オープンイノベーション」である。本学では、革新的医療技術開発研究センターと大学院医学研究科に設置する「AI インキュベーションファーム」が中心となり、産学連携オープンイノベーションのプラットフォームを整備している。

産学官連携ポリシー（抜粋）

＜組織体制の整備＞

知識創造につながる研究者の自由な発想を尊重し、研究活動を支える基盤となる組織体制を整備します。

＜倫理性・透明性の確保＞

産学官連携活動を適正に行うため、生命倫理及び個人情報保護の重要性を十分認識し、産業界、官界の役割の違いから生じる利益相反を適切に管理するため基本的ルールや活動状況を適切に開示します。

＜国際化の推進＞

最先端の研究成果を世界へ向けて情報発信し、国際的な連携を推進します。

＜人材の養成＞

研究成果を実用化するための技術移転・産学官連携業務に従事する人材の専門能力の向上のため、戦略的な人材養成を行います。

＜知的財産権の尊重＞

産学官連携におけるお互いの信頼関係の醸成と知的財産権の保護のため、秘密保持に十分配慮し、特許権の帰属、費用の分担、施設設備の使用等について柔軟に対応します。

社会連携・社会貢献に関する方針（抜粋）

＜産学官連携＞

- ・産学官連携活動を促進するため、革新的医療技術開発研究センター及び研究戦略推進センターの体制を強化し、次の方策を実施します。

〔革新的医療技術開発研究センター〕

- （1）社会実装を目指した実用化研究を活性化させるため、オープンイノベーションを推進します。
- （2）SDGs、カーボンニュートラルの活動に貢献するヘルスケア分野の国際共同研究を推進します。

〔研究戦略推進センター〕

- （1）企業・他大学・研究機関等との連携活動に積極的に取り組み、研究成果を社会に還元します。
- （2）寄付講座、共同研究講座及び産学協同研究講座の設置や共同研究・受託研究のより一層の外部資金・人材受け入れに努め、教育研究の活性化・多様化を図ります。
- （3）研究倫理に関するルールに基づいた適正な研究の遂行と研究費の適正管理に努めます。

（大研戦9－1 法人ホームページ 産学官連携ポリシー）

(2) 革新的医療技術開発研究センター

- 同センターは、8章（P.102）に記載の通り、研究開発の戦略のプロモーション及びマネジメント業務を所掌し、臨床研究を支援する「臨床研究・治験センター」と連携して、革新的医療技術の実用化・事業化に向けた研究支援活動を展開している。支援体制として、同センターの下に「メディカルイノベーション調査室」、「メディカルアーツ研究室」、「生物統計・健康科学研究室」、「レギュラトリーサイエンス・研究倫理研究室」等の室を設置し、本学との共同研究又は連携に関心のある企業・研究者に対し、本学研究者とのマッチング、共同研究の組成から社会実装までに必要な支援（研

第 9 章 社会連携・社会貢献

究シーズの実用化・事業化支援、知財技術移転支援、大学発スタートアップ創出支援等）を提供している。

（大革新 9－1 革新的医療技術開発研究センター組織図・体制図）

- 2023(令和 5)年には、社会実装に向けた包括的支援策を企画・実行するための組織として、「RDB」(Research and Development Board)を設置している。RDB は、学長直下の委員会組織であり、学長、医学研究科長、革新的医療技術開発研究センター長、臨床研究・治験センター長の他、学外有識者により構成され、同センターの産学連携支援活動について指示・助言を行っている。

（大革新 9－2 順天堂大学 GAUDI の新たな取り組み～産学連携研究の実用化を加速させる「RDB」～_順天堂だより No. 330）

- 同センターにおいて現在進行中の主なプロジェクトは、下表のとおりである。

オープンイノベーションプログラム GAUDI	社会実装に近いステージの研究開発シーズを支援（チームビルディング、スタートアップ起業、研究開発資金調達、非臨床試験、臨床試験及び事業戦略策定等）
次世代イノベーション創出基金(GAUDI アワード)	製品化や実用化につながる実用化研究を促進し、社会実装によるエコサイクル実現を目的として産学連携共同研究を支援（助成）
産学連携スタートアップ支援プロジェクト(シーズ B)	産学連携及び実用化研究の更なる活性化を図ることを目的とした、研究者シーズの社会実装を後押しする順天堂医療系スタートアップ起業に関する支援（助成）
学長特別プロジェクト(シーズ A)	実用化研究を推進するため、臨床研究又は非臨床試験の実施段階にある研究開発シーズを、革新的医療技術開発研究センターの研究プロジェクトとして支援（助成）
CORE プロジェクト	CORE (Capture of Outstanding Clinical Research and Evolution) プロジェクトとして、医薬品・医療機器等の介入研究を推進するためのスタートアップを支援（助成）

（大革新 9－3 ポータルサイト 革新的医療技術開発研究センター）

<オープンイノベーションプログラム GAUDI>

- 同センターにおける産学連携の中核的な取り組みとして、2019(令和元)年より、オープンイノベーションプログラム「GAUDI」(Global Alliance Under the Dynamic Innovation)を開始している。GAUDI では、医薬品、医療機器、再生医療等製品、ヘルスケア製品等の研究開発シーズの社会実装を支援するため、臨床研究中核病院である順天堂医院を中心とした大規模臨床プラットフォームを活用したインキュベーションサービス（実用化・事業化支援）を、企業・研究者等に提供している。
- 具体的には、学内外のエキスパートとも連携し、研究開発チームの立ち上げ支援、事業計画の策定、非臨床試験準備、臨床試験後の企業導出支援といった多様な支援を、ワンストップで提供している。また、資金面から実用化研究の活性化を促すため、学長特別プロジェクトや「大学発産学連携スタートアップ支援プロジェクト基金」による助成、3 段階に分類した開発ステージごとの研究開発費補助（GAUDI アワード）などを導入している。

（大革新 9－4 GAUDI パンフレット）

（大革新 9－5 ポータルサイト 学長特別プロジェクトについて）

（大革新 9－6 ポータルサイト 順天堂大学産学連携スタートアップ支援プロジェクトについて）

（大革新 9－7 ポータルサイト 次世代イノベーション創出基金 GAUDI アワード）

- GAUDI は、2019(令和元)年の発足以来の累計で 250 件以上の研究開発相談を受け、2022(令和 4)年度末までに特定臨床研究又は治験に至ったシーズが 9 件、共同研究講座の設置を支援し開発研究を

第9章 社会連携・社会貢献

進めるに至ったシーズが5件、更に企業導出（知的財産・特許等のライセンスアウト）等に至ったシーズが2件創出されている。

＜企業・外部研究機関との共同研究の協定締結＞

- 同センターでは、国立研究開発法人理化学研究所、花王株式会社、京都府公立大学法人京都府立医科大学等と連携協定を締結し、ライフサイエンス分野の社会貢献・社会実装を目指した共同研究を推進している。

国立研究開発法人理化学研究所 (2012(平成24)年4月26日)	相互の研究能力と人材を活かし、国内外の学術及び技術の振興と有為な人材の育成に資することを目的として、連携基本協定を締結した。本協定に基づき、順天堂大学の豊富な医療実績、臨床現場からのニーズと理化学研究所のシーズを活かして、多くの共同研究を実施している。
花王株式会社 (2015(平成27)年6月2日)	「健康を科学する」という共通テーマのもと、両組織の連携・協力関係を推進するために、研究包括契約を締結した。本契約に基づき、社会のニーズに即した革新的な技術開発とその早期実用化を推進し、グローバルなイノベーションの創出を目指し、7号館12階オープンイノベーションラボを拠点に共同研究が進められている。
京都府公立大学法人 京都府立医科大学 (2024(令和6)年3月15日)	医学系大学との研究支援部門同士の連携により、双方の強みとリソースを活用し、産学連携の取組みを通して、社会貢献・社会実装を目的とした研究を効率的かつ迅速に発展させることを目指し、連携協定を締結した。本協定に基づき、医学系領域における継続的なイノベーション創出に向けた具体的な取組みの計画に着手している。

(大革新9-8 順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定)

(大革新9-9 順天堂大学と花王が産学連携の研究包括契約を締結)

- このうち、花王株式会社との共同研究（「吸水後の紙おむつが幼児の歩き方に与える影響」等）に関して、紙おむつが歩行に影響を与える要因を解明した。本研究成果をもとに、幼児の歩行を邪魔せず自由に動き回れる快適な紙おむつの開発に向けて、継続して検討を進めている。

(大革新9-10 News Release 花王株式会社_2021年6月14日)

(3) AI インキュベーションファーム

- 本学では、人工知能 (AI)、Internet of Medical Things (IoMT)、デジタルヘルスなどに関わる研究開発及び社会実装を推進し、産業創出の好循環を生み出す「次世代医療エコシステム」を確立するための組織として、2021(令和3)年12月、大学院医学研究科に「AI インキュベーションファーム」(以下、aif)を設置している。

(大AI9-1 順天堂大学大学院医学研究科 AI インキュベーションファーム管理運営規程)

- aifでは、「文京区本郷から世界のデジタルヘルスを牽引する共創の場の構築」を目指し、5つのコアプロジェクトを掲げている。これを実現していくための具体的な取り組みとして、以下の事業を推進している。

5つのコアプロジェクト



＜オープンイノベーションの推進＞

- aif では、GAUDI と同様に、本学との共同研究に関心のある企業・研究者等に対し、本学の大規模臨床プラットフォームを活用したインキュベーションサービス（実用化・事業化支援）を提供している。人工知能（AI）、Internet of Medical Things（IoMT）、デジタルヘルスなどの領域に特化し、開発フェーズに沿って、本学研究者のとのマッチング、共同研究の組成から社会実装までに必要な支援（研究シーズの実用化・事業化支援、知財技術移転支援、大学発ベンチャー創出支援等）を展開している。

（大A I 9－2 法人ホームページ AI やデジタルヘルスをコアに産学官民が連携してイノベーションを創出する）

- オープンイノベーションを加速させる取り組みとして、aif では、2022(令和4)年8月に産学官民が参画するコンソーシアム「AI Incubation Farm Partners」を立ち上げている。2023(令和5)年3月末時点で、大企業3社、スタートアップ企業13社、アカデミア1機関が入会しており、入会企業に対し、臨床医との意見交換会や勉強会の企画、各種契約サポート、クラウドサービス活用支援などのサポートを提供している。さらに、本学の臨床医・研究者と入会企業とのネットワーキング・イベント（「Innovative Ideation HUB」）を毎月開催し、プロジェクトの具体化に向けた議論の場を提供している。

（大A I 9－3 AI Incubation Farm Partners について）

- 研究開発シーズの更なる育成を促すため、2022(令和4)年度に、学内の研究者による5つのコアプロジェクトに沿った独創的な研究に対して研究費を助成する制度を導入している。2023(令和5)年度は11件を採択している。

（大A I 9－4 AI インキュベーションファーム2023年度（令和5年度）「研究奨励費」募集について）

- aif の活動は、2023(令和5)年9月、経済産業省が公募する「第5回地域オープンイノベーション拠点選抜制度（J-Innovation HUB；Jイノベ）」に採択されている。aif では、新たなイノベーションとなる研究シーズを提供するだけでなく、大学と企業、企業と企業などの出会いを促すハブとして、本学を拠点とした地域イノベーションの創出を推進している。

第9章 社会連携・社会貢献

(大A I 9-5 法人ホームページ 経済産業省「地域オープンイノベーション拠点選抜制度」の採択決定について)

＜スタートアップ創出支援＞

- 2023(令和5)年度から、スタートアップ創出のためのプロジェクト「JASTAR (Juntendo University AI Incubation Farm MedTec Startup Acceleration Project)」を開始している。本学が有する医療・健康ビッグデータ、臨床医の知見とコラボレーションすることで、スタートアップ企業の研究・事業化を加速させることを狙いとしている。aifでは、JASTARに採択されたスタートアップ企業に対し、本学のリソースを提供するほか、臨床医との共同研究デザイン、臨床研究支援チームによる倫理委員会申請・契約関連サポート、医師、弁護士、会計士、投資家などとのネットワークの構築などを支援している。最終的には、ステークホルダーに対して成果を発表し、事業化の実現を図っている。

(大A I 9-6 AI インキュベーションファーム スタートアップ支援プロジェクト(JASTAR))

- 2023(令和5)年12月には、本学の事業(「世界のデジタルヘルスを先導する開拓者の拠点」)が東京都の「大学発スタートアップ創出支援事業」に採択され、東京都の支援を受けて大学発スタートアップの輩出に向けた支援体制強化、コアプロジェクト達成のための基盤づくりを進めている。2025(令和7)年には、本郷・お茶の水キャンパスに近接する「元町ウェルネスパーク」の中に、企業との共同研究講座やスタートアップ企業が利用可能なインキュベーション施設を設置する予定であり、「共創の場」として活用を進めていく方針である。

(大A I 9-7 法人ホームページ 東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」採択決定について)

＜現在進行中の研究プロジェクト＞

- 現在、aifがハブとなって進行している研究プロジェクトは、以下のとおりとなっている。

共同研究講座名	共同研究機関	テーマ
デジタル医療講座 (2020年5月)	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	モバイルヘルスを用いた観察研究を行い、モバイルヘルスをはじめとしたIoT機器からの個人の健康やライフスタイルに関する情報を収集し、人工知能を活用した疾患発症リスクの予測や行動変容の促進、ならびに個別化医療・先制医療に向けた医療システムの構築を行う。
遠隔医療・モバイルヘルス研究開発講座 (2024年3月)	株式会社関電工	遠隔医療のニーズ調査、モバイルヘルスを用いた臨床研究、遠隔診療の実証実験そして遠隔診療インフラの開発と遠隔診療システムの標準化を目指す。

(4) 研究戦略推進センター

- 研究戦略推進センターでは、8章に記載の通り、『順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規』において、産官学研究連携の推進並びに知的財産の組織的な管理・維持及び活用等に関する事項に取り組む旨を明記している。これを支援するための組織として、センター内に「産学官研究連携推進室」及び「知的財産室」を設置している。
- 産学官研究連携推進室では、企業からの特定の研究教育活動への寄付を有効に活用した寄付講座や共同研究の基盤となる共同研究講座を設置して、オープンイノベーションの創出を産学で連携強化を図り、成果の社会実装化を目指している(8章P.112)。近年は、積極的な連携の推進により、寄

第9章 社会連携・社会貢献

付講座や共同研究講座の設置数が高い水準で推移しており、2023(令和5)年度は共同研究講座等48件（うち産学協同研究講座3件）、寄付講座14件の計62講座となった。

（大研戦8-3 法人ホームページ「共同研究講座・寄付講座・産学共同研究講座一覧」）

- **知的財産室**では、『学校法人順天堂知的財産取扱規程』に基づき、学内研究者の知的財産権の活用（実施許諾等）の推進を図り、本学の知財創出に関する業務に対応している（8章P.112）。近年の特許出願状況は、下表のとおりである。

過去10年間の特許出願状況（令和6年4月1日現在、件数）							
	特許出願 （国内）	特許出願 （外国）	うち共同 出願	出願公開	審査請求	特許登録	商標・ 意匠
2023年	41	18	38	23	22	13	2
2022年	34	14	31	23	5	13	0
2021年	46	16	47	17	21	9	5
2020年	39	11	33	25	17	21	1
2019年	37	5	28	19	7	8	0
2018年	26	4	11	18	6	11	3
2017年	22	4	14	11	11	8	3
2016年	20	4	19	9	10	8	0
2015年	21	9	16	15	8	13	0
2014年	19	2	9	8	7	9	0

（大研戦9-2 法人ホームページ「順天堂大学における過去10年間の特許出願状況（件数）」）

- この他、研究倫理に関するルールに基づいた適正な研究の遂行、研究費の適正管理等に関しては、8章（P.114～115）にて詳述の通り、同センターにて必要な体制を整備している。

(5) 社会貢献に繋がった事例

- GAUDI では、2022(令和4)年度末までに、GAUDI の支援を通して企業へのライセンスアウトが成立し、導出先企業において製品化（上市）に至ったシーズが2件（医療機器・医療システム）、本学研究者発のスタートアップ創出に至ったシーズが4件となっている。社会実装の成果が出ている。

GAUDIのこれまでの成果（2019.7～2023）

①製品化（上市）に至ったシーズ

	達成内容	研究テーマ
2022年度	承認取得（医療機器）	極細径内視鏡
2022年度	製品化	アンギオ画像を用いた遠隔指導システム

②企業へのライセンスアウトに至ったシーズ

	達成内容	研究テーマ
2021年度	契約成立	極細径内視鏡
2021年度	契約成立	アンギオ画像を用いた遠隔指導システム

③大学発スタートアップの起業に至ったシーズ

起業年度	開発領域	専門領域	事業内容
2021年度	医薬品	耳鼻咽喉科	遺伝性難聴の治療実用化
2021年度	医療機器	救急診療科	医療及びヘルスケア関連のIT事業
2021年度	医療機器	脳神経外科	脳波情報のクラウド診断支援
2021年度	医療機器	呼吸器外科	拡張現実（AR）を用いた医療機器開発

- aif では、2024(令和6)年3月末までに、10件以上の共同研究等の協働を創出している。

第9章 社会連携・社会貢献

《国際連携・国際社会への貢献》

(1) 実施体制

- 大学全体では、国際社会への貢献に関する基本方針として、『順天堂大学国際化ビジョン』及び『社会連携・社会貢献に関する方針』を定め、国際化に向けた教育活動、研究活動、社会連携・社会貢献、学内体制の整備等に取り組むことを明示している。
- 同ビジョン・方針の推進にあたっては、法人部門に設置する「国際交流センター」を中心に、教育・研究・臨床に係る国際戦略の企画立案、全学的な組織体制の強化等に取り組むこととしており、具体的には、海外の大学等との学術提携、研究者・学生交流、国際化教育の基盤整備、留学生受け入れ及び本学学生の海外派遣等に対応している。

(大国交9-1 法人ホームページ「順天堂大学国際化ビジョン」)

(大国交9-2 順天堂大学国際交流センター運営規程)

順天堂大学国際化ビジョン（抜粋）

＜基本方針＞

- (1) 知性と教養溢れ、発信力と行動力のある国際性に富んだ人材の育成を推進する。
- (2) 新たな知を創造する国際的な研究拠点を形成する。
- (3) 本学が有する国際レベルの医学、健康、スポーツ、看護、保健医療及び国際教養等の知的財産を社会に還元する。
- (4) 上記(1)(2)(3)を実現するための学内組織体制や教育研究環境を整備する。

＜行動計画＞

1) 教育活動

- (1) 国際的通用性のある教育を担保するために、医学部では平成28年6月に世界医学教育連盟(WFME; World Federation for Medical Education)の「医学教育の国際基準」に準拠したグローバル・スタンダードによる認証評価を受審した。他学部についても教育プログラムとシステムの国際化を推進し、国際的互換性を拡充する。
- (2) 教育の円滑な国際交流を推進するために海外協定校を増やし、協働プログラムを再整備して海外大学との単位互換や大学院におけるジョイント・ディグリー等を実施する。
- (3) 留学準備段階から帰国後まで一貫して支援する海外派遣プログラム（外国語教育、事前・事後オリエンテーション等）を再整備し、海外で修学する学生数を増やす。
- (4) 外国人学生向けの研修情報や国際寮などのインフラをはじめとする生活支援体制を充実させ、学位取得の留学生及び短期受入留学生数を増やす。

2) 研究活動

- (1) 海外有力大学等との研究連携体制を強化することにより、研究者の交流や国際交流ネットワークの再構築を通して国際共同研究の更なる推進を図る。
- (2) 本学の卓越した研究分野を核に国際水準の先端研究を推進するとともに、世界的な研究拠点として研究環境を整備する。
- (3) 産学官連携による基礎臨床融合研究拠点、スポーツと医学をコアとしたスポーツロジ研究拠点の研究活動成果の積極的な国外発信を加速する。
- (4) 国際的な外部評価を受けるために順天堂医院において国際的な医療機能評価 JCI (Joint Commission International: 国際病院評価機構) を平成27年度に受審し、認証を取得した。質の高い臨床データ等を集積し、ゲノム解析等と連結させた臨床研究拠点として本学の大学病院群を再整備する。

3) 社会貢献・社会連携

第9章 社会連携・社会貢献

- (1) 社会連携推進室をコアとして、市民や自治体等との交流を活発化し、本学の教育・国際共同研究活動を周知する場を増やし、その成果物を社会に還元する。
- (2) 地域における学生ボランティア活動や国際機関における学生インターンシップ制度を充実させ、地域社会の国際化推進の一助となる。
- (3) 外国人にも開かれた教育研究機関として、広報の仕組みの見直しと改善、大学ホームページの多言語化を推進し、国際発信力を強化する。

4) 学内体制

- (1) 本学の国際的ブランド力向上戦略推進のために、全学的な国際教育推進組織体制を再整備する。
- (2) 出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め活躍の機会を与えるという「三無主義」の学風のもと、多様化する学生・研究者・教職員の受入体制をより充実したものにするため、学内文書等の英文化を推進するとともに、本学におけるさまざまな組織や施設の連携を促進し、協力関係を活性化させる。
- (3) 職員の国際化と機能向上のため、外国語運用能力の強化を図り、海外研修を含めた職員研修制度を再整備する。
- (4) 日本人学生と外国人留学生在が共に学ぶ環境を整備するため、外国人教員の雇用及び英語で専門知識を学ぶことができる授業科目の配置を促進する。

社会連携・社会貢献に関する基本方針（抜粋）

<国際社会への貢献>

「順天堂大学国際化ビジョン」に基づき、以下の取組みを行います。

（教育活動の国際化）

1. 国内外の高等教育機関との連携を図り、若手研究者の海外派遣や学生の留学に向けたプログラムの充実と支援体制の強化を図ります。
2. 外国人教員や留学生の受入れを拡大し、協働して学びあう教育環境の充実を図ります。
3. 異なる言語や多様な文化をもった国内外の地域やコミュニティとの教育的な連携を強化します。

（研究活動の国際化）

1. 国内外の大学・研究機関等との研究ネットワークを強化し、基礎臨床融合・異分野連携研究を始めとする共同研究を拡大することによって研究の高度化・深化を図ります。
2. 国際的研究拠点に相応しい研究環境の整備や臨床研究拠点としての大学病院群の機能の充実を図り、産学官の有機的な連携をもってイノベーションの創出に取り組めます。
3. 本学の独創的な研究成果等を国際学術誌等に速やかに公開するとともに社会への還元を進めるため国際シンポジウム等を積極的に開催します。

（学内体制の国際化）

1. 国際交流センターが中心となり、教育・研究の国際戦略を企画立案し、全学的な組織体制を強化します。
2. 本学に在籍した留学生・研究者等の海外ネットワーク組織の強化を図ります。
3. グローバル化に対応する教職員の育成を図ります。
4. グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金により若手研究者等の海外留学等を推進し、国際的に活躍する人材の輩出に努めます。

- 国際交流センター及び国際共同研究機構では、上記方針に基づき、総務局企画調査室でとりまとめる中期計画、年次計画に沿って、事業活動の推進・フォローアップを図っている。

(2) 学内の国際化に向けた取り組み

第9章 社会連携・社会貢献

①国際化ビジョン（数値目標）の進捗

- 国際化については2018(平成30)年度より「5か年計画」を策定し、数値目標として4つの指標（外国人正規留学生数、短期受入留学生数、協定機関数、海外留学生数）を設定している。国際交流センターの下で運営される「国際交流委員会」や大学協議会では、その進捗状況について定期的に確認・検証を行っている。2023(令和5)年度までの進捗状況は以下の通りである。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	目標値 (2027年度)
外国人正規留学生数	91	107	118	144	187	375
短期受入留学生数	470	15	40	178	362	500
協定機関数	68	71	75	80	83	100
海外留学学生数	229	5	5	191	232	470

（大図交9-3 国際化ビジョン達成目標の進捗状況）

- 短期受入留学生数及び海外留学生数については、新型コロナウイルスの感染拡大による影響などにより、2020～2021年度にかけて大幅に減少したが、2022年度以降は復調している。外国人正規留学生数、協定機関数についても、2027年度目標の達成に向けて堅調に増加している。

②教育の国際化

- 各学部・研究科の単位互換・交換留学・海外研修プログラムについては、4章（P.36）で記載の通り、多様なプログラムを整備している。各学部・研究科において、2023(令和5)年度は247名（延べ人数・実人数は244名）の学生が20か国/地域に留学（短期・長期）している。

（大図交9-4 法人ホームページ「国際交流プログラム」（各学部・研究科の交換留学・海外研修プログラム一覧））

（大企画9-2 令和5年度事業報告書_海外への学生派遣について）

- 医学部研究科では、2022(令和4)年度から留学生を対象とする秋入学制度を開始し、英語による授業のみで修了できるコースを設置している。医学研究科博士課程では、急増するインバウンドニーズへの対応の一環として、認定医療通訳者を育成する「ヘルスコミュニケーションプログラム」を開講している。医療看護学研究科でも、国際的に活躍できる看護の専門家を育成することを目的に、2022(令和4)年度に留学生を対象とするコース（博士前期課程「グローバルナーシングコース」、博士後期課程「グローバルナーシングリーダーシップコース」）を設置し、英語による授業を展開するほか、博士前期課程において日本人学生と留学生が合同で受講できる授業を実施している。

（大院医9-1 法人ホームページ「ヘルスコミュニケーション 学位プログラム」）

（大院看9-1 大学院グローバルナーシングコース教育要項）

- 医学部では、前述のとおり（本章 P.127、外国の医師免許を持つ医師に対して、日本の医師養成のための医学教育を施し、日本の医師免許取得に必要な知識の習得、国際的な視野を有する医療人を育成することを目的とした履修証明プログラム（「国際医療人養成プログラム」）を2020(令和2)年度より開講している。修了者は、2020(令和2)年度に10名、2021(令和3)年度に18名、2022(令和4)年度に30名、2023(令和5)年度に65名となっている。また、2023(令和5)年度の修了者のうち海外の医学部を卒業し日本の医師免許を取得した医師6名が初期臨床研修医として本学に入職している。

（大図交9-5 2023年度順天堂大学学部 履修証明プログラム 国際医療人養成プログラム募集要項）

- 国際教養学部では、留学生受入プログラムとして、2021(令和3)年度に「日本語・日本文化研修プ

第9章 社会連携・社会貢献

プログラム」を開設している。2022(令和4)年度から本プログラムによる留学生の受け入れを開始し、これまでに協定校より15名の交換留学生を受け入れている。

(大国教9-1 順天堂大学国際教養学部日本語・日本文化研修プログラム募集要項_令和5年4月)

③研究の国際化

- 科研費等では、研究の国際化を推奨するため、毎年、国際化の研究種目が設定されている。本学においても、研究の国際化、国際共同研究の推進、国際共著論文への展開等を推進するため、同制度を積極的に活用している。申請に当たっては、URAが研究種目をリサーチし、海外機関の魅力を精査している。研究者は、URAの支援を受けて魅力ある研究計画を提案している。

2022(令和4)年度	新規応募	新規採択	新規採択率	継続採択	採択合計
国際共同研究強化 (A)	9	3	33.3%	0	3
国際共同研究強化 (B)	6	1	16.7%	5	6
2023(令和5)年度	新規応募	新規採択	新規採択率	継続採択	採択合計
国際共同研究強化	8	5	62.5%	0	5
海外連携研究	8	2	25.0%	4	6
国際先導研究	1	1	100.0%	0	1

- 協定を結んだ海外の大学との共同研究に関する連携強化を図るため、本学は2021(令和3)年4月に「国際共同研究機構」を設置している。同機構の下に、北京大学(中国)、ジョンズ・ホプキンス大学(米国)、マヒドン大学(タイ)との国際共同研究センターを設置し、これらの組織が一体となって、国際共同研究の促進、国際学術ネットワークの拡大、国際的な視野を持つ若手研究者の育成等に取り組んでいる(8章P.103)。同機構では、上記の大学のほか、カリフォルニア大学デービス校、ピッツバーグ大学、ヴァンダービルト大学(以上、米国)との間で連携プロジェクトを推進している。

(大国研9-1 法人ホームページ「国際共同研究機構」)

④留学生の受け入れのため基盤整備

- 国際交流センターでは、2013(平成25)年度から、東京医科歯科大学と相互協力体制を構築し、両校の留学生の日本文化交流や日本語教育事業を共同で実施している。同大学が開催する日本語プログラムに本学の留学生が参加することができるほか、同大学と共催する「留学生交流会」を年に数回開催している。

(大国交7-5 順天堂大学・東京医科歯科大学日本文化交流プログラム)

- 同センターでは、2021(令和3)年度より、全学の外国人留学生を対象とした日本語習得のための講義(「日本語講座」)を開講し、2023(令和5)年度は72名の留学生が受講している(7章P.84)。これに合わせて、「日本語能力試験」でN2以上を取得した学生に奨学金(グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金)を支給する制度も設けている。

(大国交7-3 日本語講座概要資料)

- 留学生寮(7章P.84)や外国人留学生向けのその他の奨学金制度(7章P.86)を整備するなど、留学生の生活支援についても対応している。

⑤学内の国際化への対応

- 本学では、外国人留学生の受け入れや外国人教員・研究者との交流を促進するため、専任スタッフ及び専任教員の拡充を図っている。2023(令和5)年度は45名の外国人教員(常勤)が在籍し、教

第 9 章 社会連携・社会貢献

員全体に占める割合は 2.3%となっている。

(大人事 9-1 外国人教員数の推移)

- 教職員の育成については、医療英語を通じて TOEFL スコアの向上を目標とした研修(「SD 英語研修」)を毎年実施するなど、英語力の強化を図っている。2023(令和 5)年度は、121 名の教職員が受講している。

(大人事 9-2 第 11 回 SD 英語研修 案内)

(4) 国際貢献・連携

① 国際交流活動の推進

- 国際交流については大学を挙げて積極的に推進している。2024(令和 6)年 3 月末時点の大学間における国際交流協定校は、28 カ国/地域・83 機関となっている。「国際化ビジョン」における目標値である「2027 年度までに 100 機関」の達成に向けて、各学部・研究科と連携して協定締結を推進している。

(大国交 9-6 大学協力協定締結状況)

- 本学は、海外の教育・研究・医療機関等からの視察・表敬訪問等も受け入れ、交流を図っている。2023(令和 5)年度は、13 件の訪問を受け入れている。

(大国交 9-7 2023 年度表敬訪問・行事一覧)

② 研究成果の還元(国際シンポジウムの開催等)

- 本学は、毎年、海外の協定校との間で「国際学術シンポジウム」を開催している。国際交流センターでは、主に北京大学との間で定期的に企画しており、2023(令和 5)年度には、9 回目となる「順天堂大学-北京大学国際学術シンポジウム」を開催し、客員教授の授与式と記念講演会を実施した。

(大国交 9-8 JUIC 主催シンポジウムの開催実績)

(大国交 9-9 第 9 回順天堂大-北京大医国際共同シンポジウムプログラム)

- 医療看護学部、国際教養学部、保健医療学部、健康データサイエンス学部でも、国際的なシンポジウムを開催している。

各部門で開催された国際シンポジウム(令和 5 年度)

< 医療看護学部・医療看護学研究科 >

医療看護学部第 24 回国際交流講演会/順天堂医院看護部第 15 回国際看護セミナー

医療看護学研究科第 13 回国際看護セミナー

< 国際教養学部 >

第 5 回順天堂大学&シンガポール国立大学合同国際フォーラム

< 保健医療学部 >

2023 JUHS International Symposium

< 健康データサイエンス学部 >

国際シンポジウム「Data Science Online Symposium 2023」

国際シンポジウム「Vendor-neutral quantitative MRI: improving reproducibility for data science」

③ 国際協力活動

- 本学では、国際協力機構(JICA)との連携により、各種の国際協力活動を展開している。近年の取り組みは以下のとおりである。

第9章 社会連携・社会貢献

順天堂大学・タイ王国 (公衆衛生分野)連携 プログラム (2018年～)	タイにおける公衆衛生分野での支援のため、学生、卒業生及び教職員をボランティアに派遣する事業。国際教養学部でグローバルヘルスを学ぶ学生を派遣。ボランティア期間中は、国立チェンマイ・ラチャパット大学情報科学学部公衆衛生学科に配属し、日本の公衆衛生の知識・経験を生かした活動を通して、タイの公衆衛生分野における人材育成と能力強化に貢献することを目指している。
JICA 研修員(学位課程就学者)の受入 (2020年～)	JICA 研修員(学位課程就学者)の受入に関する覚書に基づき、毎年、途上国からの研修員を受け入れている。2023(令和5)年度は5名(医学研究科1名、医療看護学研究科4名)の研修員を受け入れている。
保健医療分野等の 連携協定 (2020年～)	途上国における保健医療分野等の支援を強化するため、JICA 研修員の受け入れや、本学教職員・学生等のJICA 専門家・ボランティアとしての派遣などについて協力する取り組み。

(大国交9-10 法人ホームページ JICA とボランティア事業推進に関する覚書を締結－タイの公衆衛生分野における人材育成と能力強化を支援－)

(大国交9-11 JICA 研修員(学位課程就学者)受入に係る独立行政法人国際協力機構と学校法人順天堂との覚書)

(大国交9-12 独立行政法人国際協力機構と順天堂大学との保健医療分野等の連携協定)

- 上記協定の更なる包括的な連携を目指し、本学では、JICA との連携による国際的に活躍できる看護の専門家の育成を目指す取り組みとして、2022(令和4)年10月に大学院医療看護学研究科において秋入学制度を活用した留学生対象のコースを新たに開設している(本章P.137)。これまでにタイやカンボジア、ブータンなど東南アジア・南アジアからの留学生を受け入れている。2023(令和5)年度は、グローバルナーシングコース(博士前期課程)2名、グローバルナーシングリーダーシップコース(博士後期課程)2名を受け入れている。

(大院看9-1 大学院グローバルナーシングコース教育要項)

(大院看9-2 法人ホームページ Good Health Journal_2022.10.14)

④臨床部門による連携活動

- 海外大学医学部に所属する外国人学生の本学診療科における「短期研修受入(Clinical Observership Program)」を2003(平成15)年度から無償で行っている。COVID-19の流行により一時期受入数が激減したものの、2023(令和5)年度には回復し、年間347名を受け入れた。

(大国交9-13 法人ホームページ Clinical Observership Program(医学部短期研修生受け入れ))

⑤ウクライナ支援

- 本学の全面的な支援のもと、2022(令和4)年7月よりウクライナの学生・医療者・研究者等を受け入れ、教育研究の機会を提供している。これまでの受入人数は18名となっている。
- 受け入れた学生たちへの支援を行うだけではなく、ウクライナのヘルスケアに関する国際シンポジウムを開催し(2022(令和4)年8月)、国際社会に研究成果を発信するとともに、学内での写真展の開催や本学学生とウクライナ人学生との交流会を定期的に行うなど教育的な交流も図っている。

(大国交9-14 ウクライナからの学生等への支援について)

- 順天堂医院では、総合診療科及び国際診療部の共同で、2023(令和5)年5月より、ウクライナ避難民を含む日本在住のウクライナ人を対象に無料の医療相談の提供を開始している。

(大国交9-15 法人ホームページ 日本在住のウクライナ人を対象とした医療相談を提供)

第9章 社会連携・社会貢献

評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。

- 社会連携・社会貢献に関する部署においては、それぞれの運営委員会等において、事業内容の点検・評価を行い、その結果を踏まえて次年度の計画等を策定している。

《社会連携・地域連携》**(1) 社会連携推進室**

- 社会連携推進室では、学長（社会連携推進室長）を委員長とする「社会連携推進委員会」を定期的に開催し、全学及び各キャンパス、附属病院における社会連携・地域連携の取り組み状況や事業計画等について、事業の有効性や適切性の観点から確認・検証を行っている。2023(令和5)年度事業の検証の結果、各部門が独自で事業に取り組むケースが多く、部門間の連携が発揮されず、本学の強みが十分に活かせていないという課題が見られた。このため、2024(令和6)年度事業では、浦安市に拠点を置く浦安病院、浦安キャンパス、浦安・日の出キャンパスの3部門の合同によるイベントを実施する計画である。
(大社連9-3 令和5年度社会連携推進委員会議事録_令和5年7月)
- 連携協定を締結している自治体とは、大学の社会連携推進室や各キャンパス及び附属病院に設置されている社会連携推進室分室が関連する自治体と連絡を取り合い、必要に応じて連絡協議会等の場を設け、事業内容の調整や見直しを図っている。

《産学官連携》**(2) 革新的医療技術開発センター**

- 「革新的医療技術開発研究センター運営委員会」では、会員企業及び学内外アカデミアへの支援状況や共同研究等の進捗状況が定期的に報告され、医師・生物統計家・研究事務局員等の多職種から構成される委員による評価・改善が行われている。改善が必要な事項については、方策を協議し実践している。
(大革新9-11 令和5年度第1回革新的医療技術開発研究センター運営委員会議事次第_令和5年4月)
- 同委員会の活動を通じて、同センターにて進行しているプロジェクト（研究助成）の支援対象の見直し・整備を行い、研究者の適正な応募に繋がるよう、改善を行った。

(3) AI インキュベーションファーム

- aif では、AI インキュベーションファームセンター長、副センター長及び事務局を構成員とする「AI インキュベーションファーム運営委員会」を定期的に開催し（年6回）、KPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）を策定して各プロジェクトの進捗状況の確認や、事業の有効性や適切性について検証を行っている。

(4) 研究戦略推進センター

第9章 社会連携・社会貢献

- 研究戦略推進会議では、研究戦略推進センター管理運営内規第2条に関する事項（研究戦略、産学官研究連携、知的財産、研究企画・管理及び支援）を検討するが、優先事項として、競争的研究費の獲得に関する事項を喫緊の課題とし、本学の研究支援体制状況に加え、学術研究活動の全学的な推進と支援に関する事項等を高度学術専門職者であるURAによる報告に基づき検証している。

《国際連携・国際社会への貢献》

(5) 国際交流センター

- 国際交流センターとその下部委員会である「国際交流委員会」が中心となり、各学部・研究科から報告のあった国際交流に関する事項や実績の検証、各留学生の奨学金の受給状況や国際化ビジョンの進捗状況等について検証を行っている。同センターでは、委員会における協議・検証内容に関する議事録を全学部・研究科に共有・周知し、国際交流活動に関わる事項の改善・向上に取り組んでいる。

（大國交9-16 第162回国際交流委員会議事録_令和6年3月）

2. 分析を踏まえた長所と問題点・課題

2-1. 長所

《社会連携・地域連携》

1) 本学の強みを活かした連携の展開

文京区及び成田市とは組織的な連携体制を構築しており、各キャンパス・附属病院と連携し、本学の強みを活かした多様で包括的な協力を継続的に展開できている。自治体との連絡協議を通じてニーズを汲み取りながら対応しており、本学の取り組みについて自治体側からも評価を受けている。

《産学官連携》

2) 各研究支援組織と連携した効果的な支援の提供

GAUDI では、順天堂大学の各研究支援組織（ARO）と密接に連携し、シームレスな実用化研究の支援を実現している。特に、臨床研究中核病院の承認の下、支援機能を充実させている「臨床研究・治験センター」との協働により、本学の強みである大規模な臨床基盤を活用し多岐にわたる KOL（Key Opinion Leader：医薬品メーカーの販売促進を援助するために雇用される専門家や医師等）との臨床研究、共同研究の実施が可能となっている。

aif では、AI、IoMT、デジタルヘルスに関連する企業や研究者が参加するコンソーシアム体を有し、イベントの開催を中心とした企業と研究者の交流の場を設けることで、共同研究等の産学連携を促進している。月に1度のペースでネットワーキング・イベントを開催し、参加企業からは「臨床課題が明確になった」、「医工連携先が見つかった」といった評価を受けるなど、総じて満足度は高い。また、東京都の事業である「大学発スタートアップ創出支援事業」及び経済産業省の事業である「地域オープンイノベーション拠点選抜制度」の認定を取得することにより、aif が実施するアクセラレーションプログラムや起業・事業化に向けた伴走支援等に取り組みに関する質の保証も確保している。

2-2. 問題点・課題

第9章 社会連携・社会貢献

《社会連携・地域連携》

1) 地域連携の活性化

現在協定を締結している自治体との将来にわたるパートナーシップに加え、新たな自治体等の関心の掘り起こしに繋がるよう、社会連携に関わる活動実績等の情報をホームページで適宜発信し、効果的に広報していく必要がある。

《産学官連携》

2) 社会実装及びスタートアップ支援の更なる機能強化

本学の実用化研究開発に対する機運の高まりにより、本学発のスタートアップの起業数は20社を超え、社会実装・スタートアップを目指す産学連携拠点として注目されつつある。アカデミア研究とビジネスの懸け橋となる支援活動であるため、従来型の大学研究支援とは異なる事業戦略やビジネス展開を見据えた支援体制の構築が課題である。

《国際交流・国際社会への貢献》

3) 国際化ビジョンの質の確保

国際化ビジョンの数値目標のうち、「外国人正規留学生数」及び「海外留学生数」については、2027年目標値との乖離が見られる。また、本学の留学生数は、順調に増加しているものの、例えば全学部生に占める留学生の割合は2.5%となっており、全国の大学（学部）の平均（3.4%）を下回っている状況である。引き続き留学生数の増加に向けて取り組む必要がある。

4) 国際化の取り組みに関する情報の共有

学内の国際化の更なる推進に向け、各部門で進めている国際化の取り組みを全学で共有し、全学的な方針・計画を策定していく必要がある。

3. 改善・発展方策

3-1. 長所の発展方策

《社会連携・地域連携》

1) 本学の強みを活かした連携の展開

地域の課題解決により深く貢献できるよう、各キャンパス・附属病院の独自事業だけでなく、複数部門の連携による包括的な活動の展開など、本学の強みを十分に活かすことのできる事業を検討していく。文京区、成田市との連携をモデルに、継続的な活動の展開が見込める自治体との連携強化について検討していく。

《産学官連携》

2) 各研究支援組織と連携した効果的な実用化支援の提供

近年は、デジタルトランスフォーメーション（DX）や生成AIを用いた実用化研究および共同研究に関する相談、支援依頼が多く入る中、こうした分野の専門的知見を持った人材が不足している。GAUDIの活動の更なる発展のため、SaMD（Software as a Medical Device：プログラム医療機器）を含むDXやヘルスケア・ウェルビーイング領域の支援機能の強化についても今後検討していく。

aifに関しては、コンソーシアム全体の会員に対して、より充実したサービスを提供することで、会員の満足度を向上させるとともに、新規会員の獲得を促進し、コンソーシアム全体のエコ

第9章 社会連携・社会貢献

システムをさらに強化する。具体的には、四半期割り会費制度の導入及び展示会への共同出展等を検討する。また、スタートアップ企業や他組織との連携を積極的に推進するため、学内の制度を見直し、より柔軟かつ効果的な仕組みを構築する。この取り組みにより、新たなイノベーションの創出や学外との協力関係の拡大を目指し、社会における大学の存在価値を高める。具体的には、学内部門連携促進のための組織連携体制の見直し及び他拠点研修による他拠点の取り組みの収集を検討する。

3-2. 問題点・課題の改善方策

《社会連携・地域連携》

1) 地域連携の活性化

連携活動を行った自治体等との意見交換を密にし、自治体等からの評価・要望等も踏まえながら、より効果的な連携について検証を行っていく。併せて、活動実績に関する広報も適時に行っていく。

《産学官連携》

2) 社会実装及びスタートアップ支援の更なる機能強化

現行の各部門による支援・機能の集約も含め、「大学の研究」と「ビジネス・事業化」の懸け橋となる支援体制の構築について検討を進める。

《国際交流・国際社会への貢献》

3) 国際化ビジョンの質の確保

各部門における国際化の取り組みを検証し、国際化ビジョンの目標達成に向けた方策を検討する。

4) 国際化の取り組みに関する情報の共有

各部門の「国際化委員会」における取り組み・課題・改善方策などを確認するため、合同会議の開催を検討する。

4. 全体まとめ

地域社会・自治体との連携は「社会連携推進室」、企業・研究機関との連携は「研究戦略推進センター」及び「革新的医療技術開発研究センター」、国際交流・国際化は「国際交流センター」がそれぞれ中心的な役割を果たし、全学を挙げて推進している。自治体との連携協定締結が進み、教育研究成果を社会に還元する各種取り組みが行われている。公開講座・シンポジウム開催や講師派遣も積極的に行われている。企業や学外研究機関等との連携も進み、本学の研究シーズを活用した企業等との共同研究・実用化研究の推進や特許出願・特許化等の成果が出ている。また、医学部附属病院を通じた地域への貢献も果たしている。

このように本学は、『社会連携・社会貢献に関する方針』に掲げる国際的研究・教育拠点として、地域社会、産業界、国際社会等との幅広い連携活動を展開でき、教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元している。

第9章 社会連携・社会貢献

5. 根拠資料

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
1	大大評9-1	法人ホームページ 「各種方針」「社会連携・社会貢献に関する方針」 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/policy/
2	大社連9-1	学校法人順天堂社会連携推進室運営規程
3	大社連9-2	社会連携推進室実施体制図
4	大社連9-3	令和5年度社会連携推進委員会議事録_令和5年7月
5	大社連9-4	法人ホームページ 「自治体との連携」 https://www.juntendo.ac.jp/sustainability/effort/municipality/
6	大社連9-5	文京区・成田市との連携事業
7	大社連9-6	令和6年度第1回社会連携推進委員会 令和5年度事業報告
8	大企画9-1	令和5年度事業報告書_臨床活動の主な概要(P.28) https://www.juntendo.ac.jp/assets/43cbee881064382836af6886d7b34afa.pdf
9	大保看9-1	三島市との災害時救護体制覚書
10	大大評9-2	順天堂大学における大学間連携一覧
11	大研戦9-1	法人ホームページ 「産学官連携ポリシー」 https://www.juntendo.ac.jp/research/collaboration/policy/
12	大革新9-1	革新的医療技術開発研究センター組織図・体制図
13	大革新9-2	順天堂大学 GAUDI の新たな取り組み～産学連携研究の実用化を加速させる「RDB」～ _順天堂だより No.330 (P.22) https://juntendopr.sakura.ne.jp/letter/330/book/#target/page_no=25
14	大革新9-3	ポータルサイト 革新的医療技術開発研究センター https://portal.med.juntendo.ac.jp/research/jmtic/
15	大革新9-4	GAUDI パンフレット
16	大革新9-5	ポータルサイト 学長特別プロジェクトについて https://portal.med.juntendo.ac.jp/research/jmtic/pres_project/
17	大革新9-6	ポータルサイト 順天堂大学産学連携スタートアップ支援プロジェクトについて https://portal.med.juntendo.ac.jp/research/jmtic/startup/
18	大革新9-7	ポータルサイト 次世代イノベーション創出基金 GAUDI アワード https://portal.med.juntendo.ac.jp/research/jmtic/rdbgaudiawards/
19	大革新9-8	順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定
20	大革新9-9	順天堂大学と花王が産学連携の研究包括契約を締結
21	大革新9-10	News Release 花王株式会社_2021年6月14日
22	大A I 9-1	順天堂大学大学院医学研究科 AI インキュベーションファーム管理運営規程
23	大A I 9-2	法人ホームページ AI やデジタルヘルスをコアに産学官民が連携してイノベーションを創出する https://www.juntendo.ac.jp/branding/report/aif/
24	大A I 9-3	AI Incubation Farm Partners について
25	大A I 9-4	AI インキュベーションファーム 2023年度(令和5年度)「研究奨励費」募集について

第9章 社会連携・社会貢献

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
26	大A I 9-5	法人ホームページ 経済産業省「地域オープンイノベーション拠点選抜制度」の採 択決定について https://www.juntendo.ac.jp/news/15867.html
27	大A I 9-6	AI インキュベーションファーム スタートアップ支援プロジェクト (JASTAR) https://sites.google.com/view/aif-jastar
28	大A I 9-7	法人ホームページ 東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」採択決定につい て https://www.juntendo.ac.jp/news/17413.html
29	大研戦 9-2	法人ホームページ 「順天堂大学における過去10年間の特許出願状況（件数）」 https://www.juntendo.ac.jp/research/collaboration/situation/
30	大国交 9-1	法人ホームページ 「順天堂大学国際化ビジョン」 https://www.juntendo.ac.jp/about/university/vision/
31	大国交 9-2	順天堂大学国際交流センター運営規程
32	大国交 9-3	国際化ビジョン達成目標の進捗状況
33	大国交 9-4	法人ホームページ 「国際交流プログラム」(各学部・研究科の交換留学・海外研 修プログラム一覧) https://www.juntendo.ac.jp/academics/international/
34	大企画 9-2	令和5年度事業報告書_海外への学生派遣について(P.37) https://www.juntendo.ac.jp/assets/43cbee881064382836af6886d7b34afa.pdf
35	大院医 9-1	法人ホームページ 「ヘルスコミュニケーション 学位プログラム」 https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/master/hlc/
36	大院看 9-1	大学院グローバルナーシングコース教育要項
37	大国交 9-5	2023 年度順天堂大学医学部 履修証明プログラム 国際医療人養成プログラム募 集要項
38	大国教 9-1	順天堂大学国際教養学部日本語・日本文化研修プログラム募集要項_令和5年4月
39	大国研 9-1	法人ホームページ 「国際共同研究機構」 https://www.juntendo.ac.jp/research/organization/joint-research/
40	大人事 9-1	外国人教員数の推移
41	大人事 9-2	第11回SD 英語研修 案内
42	大国交 9-6	大学協力協定締結状況
43	大国交 9-7	2023 年度表敬訪問・行事一覧
44	大国交 9-8	JUIC 主催シンポジウムの開催実績
45	大国交 9-9	第9回順天堂大-北京大医国際共同シンポジウムプログラム
46	大国交 9-10	法人ホームページ JICA とボランティア事業推進に関する覚書を締結・タイの公 衆衛生分野における人材育成と能力強化を支援－ https://www.juntendo.ac.jp/news/02858.html
47	大国交 9-11	JICA 研修員（学位課程就学者）受入に係る独立行政法人国際協力機構と学校法人 順天堂との覚書
48	大国交 9-12	独立行政法人国際協力機構と順天堂大学との保健医療分野等の連携協定
49	大院看 9-2	法人ホームページ Good Health Journal_2022.10.14

第 9 章 社会連携・社会貢献

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
		https://goodhealth.juntendo.ac.jp/pickup/000297.html
50	大国交 9-13	法人ホームページ Clinical Observership Program (医学部短期研修生受け入れ) https://en.juntendo.ac.jp/academics/clinical-observership/
51	大国交 9-14	ウクライナからの学生等への支援について
52	大国交 9-15	法人ホームページ 日本在住のウクライナ人を対象とした医療相談を提供 https://www.juntendo.ac.jp/news/14431.html
53	大革新 9-11	令和 5 年度第 1 回革新的医療技術開発研究センター運営委員会議事次第_令和 5 年 4 月
54	大国交 9-16	第 162 回国際交流委員会議事録_令和 6 年 3 月